

ぽっぽちゃんからの 研究だより



編集・発行
札幌市立もいわ幼稚園
南区研究実践研究事業

札幌市立もいわ幼稚園は、札幌市「南区の研究実践園」として、幼児教育の質の向上を目指し、実践的な研究を積み重ね、その結果を研究だよりや HP などにて発信しております。研究・研修事業においては、今年度から研究協力園である中央区研究実践園の「中央幼稚園」と連携を図りながら、両区の研究・研修の充実を目指しております。

今年度より、札幌市立幼稚園・認定こども園10園の共通研究主題及び副主題を下記のように掲げ、幼稚園教育要領などを踏まえた教育活動の充実を目指していきます。

本園は、数年前から急激に園児数の激減傾向がみられ、少人数での保育を余儀なくされています。そのため、ごっこ遊びを役割分担して楽しんだり、チームでルールのある遊びをしたりすることが難しい状況になってきています。

そこで、今年度は「遊ぼう day」や「お家の人と遊ぼう週間」を通して、幼児の遊びの楽しさや育ちについて保護者と共有しながら、多様なヒト・モノ・コトに出会う機会を保護者にも提供していただくことで刺激を受けたり、豊かな経験につながるきっかけを企画していきたいと考えました。

<研究主題> (札幌市研究実践園10園 共通)

「質の高い幼児教育の実現に向けて ~つながる ひろがる 札幌市の幼児教育」

<研究副主題> (中央区と共通)

「園と家庭が一体となって子どもの育ちを支えるために」



そこで、今年度は・・・



<研究の重点>

「遊びの楽しさや面白さ、一人一人の育ちについて、保護者と共有していくために」

1年時のポイント

~「お家の人と遊ぼう週間」や「遊ぼう day」などの保護者との関わりを通して~

研究の進め方

- (1) 保育参加の一つとして「お家の人と遊ぼう週間」を設定し、希望保護者の得意なことを活かす環境や状況をつくる。
 - ・保護者の得意なことを活用して多様なヒト・モノ・コトに出会う機会となるような保育を考える。
 - ・幼児の「やってみよう!」「面白い!」経験を普段の保育の中で追及し、主体性を促したり少人数保育の遊びの充実を図ったりしていくための環境の構成と教師の援助を探る。
- (2) 全保護者が年に1回参加をする「遊ぼう day」を通して、親子で「遊びの楽しさ」を体験し共感し合う場を作る。
 - ・「遊ぼう day」の活動を通して、保護者が「幼児期の遊びの大切さ」や「遊びから学んでいること」に目を向け、「幼児の視点からの遊びの楽しさ」を共有するための構成と教師の援助を探る。
- (3) レポート「まほうのかいわ」の分析・検証する
 - ・年間を通した親子で同じ体験をすることのできる機会(親子栽培・遊ぼう day 絵本貸し出し・夏、冬休み)を通して、「子どもがどんなことに心を動かしていたか」「保護者はどのように関わったか」「保護者が体験して感じたことは」「家庭でどのような言葉掛けを心がけているか」などをレポートで提出して頂き、分析したり検証したりする。